

Le costume moderne : journal illustré de modes : Fachjournal für das gesamte Damen-Costüm-Fach (ル・コスチューム・モデルヌ)

Berlin : C. Heinemann , 1890—1906

1890年に初刊された本誌「最新流行衣裳：モード画新報」は、おそらくモードの専門技術者を対象としていたと思われるプレート集である。文献目録類に記されていないため、何年まで刊行されたかは詳らかでない。毎月通常5枚、時折6枚のプレートに1、2ページの解説文を添えて発行されたもので、本館の所蔵になるものは、その第2年目にあたる1891年3月から1906年12月までの分が13冊分に合本され、総数300枚のプレートが納められている。

本誌の特色はそのプレートの細密な描写とそこに用布のスイッチが貼付されていることである。プレートは手彩色石版画で、ページ中央に大きく一体が描かれ、周辺の余白に小さくバックスタイルと、デザインのバリエーションが添えられている。中央の人物は髪型、顔の表情、パラソルや扇などの持ち物、そしてなかでもこの時期の特徴である衣装の多様で凝った装飾と生地テクスチャまでが、まざまざと描出されている。それは刊行当時、単にニューモードの一般的イメージだけではなく、それを模倣するための具体的技術をも伝える役割を果たしたものと考えられる。

また現在は約10%程は欠落しているものの、当初はすべてのプレートに貼られていたらしい5×7cmのスイッチは実際に衣装を仕立てようとする人に、誠的的確なアドバイスを与えたことであろう。

従って、このプレート集はモードの一般客というよりも、クチュールやミリナー、あるいは生地店などが購入して、顧客に見せて注文を受けるときに役立てたものと推測される。細部の描写に余りにもとらわれすぎ、表現が様式化されているため、芸術的評価は必ずしも高くはないであろうが、今日では一般の服装からはほとんど失われ、忘れ去られつつある、いわゆるベルエポックの女性のモードにおけるクチュリエやミリナーたちの至芸ぶりをつぶさに見せてくれ、またその衣擦れの余韻まで伝えてくれる点できわめて貴重な資料である。

(能澤慧子)

〔文化女子大学図書館所蔵 続西洋服飾関係欧文文献解題目録〕

より転載



1891年の草花文絹地またはウールモスリンの夏の外出着